

## 立教大学と立教女学院短期大学の 大学間交流の開始に寄せて

立教女学院短期大学 教務部長 権藤 桂子

2001年度から、本学の学生が立教大学池袋キャンパスにおいて、「全学共通カリキュラム」の科目を履修させていただくことになった。立教大学と立教女学院短期大学との交流は、1998年から経済学部2名の編入学制度が開始された時からすでに始まっており、現在では、コミュニティ福祉学部3名、観光学部3名を含めた合計8名の編入学者を、毎年送り出している。この編入制度に加え、今回の「全学共通カリキュラム」の科目履修および単位取得の制度が開始され、本学在生にも立教大学との交流の道が開かれたということは、学生にとって大きな励みとなったことは言うまでもない。

実は、本学では、すでに数年前、他大学との連携についての検討を行い、東京7短期大学間での単位互換制度などを模索していたにもかかわらず、お互いのキャンパスの距離が離れすぎているなどの問題のために実現に至らなかったという経緯がある。このような中で、今回、立教大学からの「全学共通カリキュラム」の科目履修および単位取得の制度が実現したことは、「開

かれた短期大学」を目指す立教女学院短期大学にとって、これからの大学間交流の可能性を開く第一歩として、意義が大きい。

実施に至るまでの過程では、立教大学と本学の教務課間で運用に関する話し合いが数回重ねられた。その後、2001年1月25日に、正式に大橋総長と佐藤学長との間で協定書の調印が行われ、2001年度からの実施となった次第である。実際には、学生への情報の提供など時期的な問題があり、2001年4月からの実施は難しかったため、前期は見送って、後期からの開始となったが、2002年度からは、前期にも履修させていただくことになっている。ただし、本学での話し合いの結果、1年次生の前期は、本学での必修科目などが集中し、立教大学の科目履修は難しいと判断したため、対象者は、1年次前期を除くすべての学生となった。

ところで、本学のキャンパスは杉並区の久我山、井の頭線三鷹駅徒歩一分の場所にあり、渋谷まで約20分と、かなり交通の便は良いところに位置している。しかし、やはり池袋まで授業

を受けに行くとなると片道60分を要し、その上、午前中は本学の必修科目が集中しているため、実際に履修できる時間帯は限られている。したがって、こちらでは、本学の授業終了後、帰りに池袋へ寄って授業を受けるか、あるいは、2年次後期になって自由な時間が増えた学生などが、主に履修するのではないかと考えていた。全学で約800名という本学の規模から見て、履修者はおそらく20名程度ではないかと予想し、そのつもりで準備を行った。ところが、学期の初めに蓋を開けてみると、予想を大きく上回る、のべ193名が、36科目にわたって履修をするという結果となった。初めての試みということで、学生の興味が集まったのか、本学のカリキュラム上、後期の方が時間の調整がしやすかったのか、とにかく多くの学生がこの新しい試みに期待を寄せていたのは事実である。

履修登録時の状況は、1科目10名という人数制限にもかかわらず、うまく学生の興味と履修可能な時間が分散したのか、1つの科目に多くの学生が集中する事態は避けることができ、希望者数超過で抽選を行ったのは2科目だけで、ほとんどの学生が希望どおり履修させていただくことができた。

履修科目状況を見ると、「心の思想」や「心の科学」といった心理学系の科目や、本学の非常勤講師としてご出講いただいている立教大学教員の科目などに人気が集まっている。本学は、英語科と幼児教育科の2科の短期大学で

あることから、やはり理科系の科目よりも文化系特に心理などへの興味が高いという傾向を反映しているようである。

現在、後期がもうすぐ終わろうとしているが、「全学共通カリキュラム」の後期試験終了を待って、授業履修者にはあらためて感想や要望などを聞く機会を作る予定である。これらの感想は、今後の単位互換制度のために是非、立教大学の方へもお伝えしたいと考えている。この制度が、今後より一層、学生の視野の拡大や学習意欲の向上につながることを期待してやまない。

一つ難を言えば、大学間交流とはいっても、現在のところ一方的に本学の学生が立教大学の科目を履修させていただいている形である点であろうか。大学間交流において、短期大学として、どのような役割をとることができるのか、これからの本学の課題でもある。